

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年12月7日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ：オープニング、神奈川県 of 行政文書が保存された HD 転売問題、イギリスの万年泡沫政党 【特集】桜を見る会～招待状はなぜ		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフガニスタンで死亡した中村医師が今夜にも帰国の途に ・オープニング ・三菱電機で先輩社員が新入社員に自殺唆す ・全国で「パワハラ・過労死 110 番」 ・神奈川県 of 行政文書が保存された HD 転売問題 ・千葉県職員による虐待事件 ・長野市のダム湖に乗用車が転落 ・イギリスの万年泡沫政党 ・京都の千本釈迦堂で「大根だき」 ・広島 of 不動院金堂で「すす払い」 ・横浜で初雪と関東で厳しい寒さ ・東京江東区で先月 29 日の交通トラブル暴行事件 of 容疑者逮捕 ・茨城県で 78 歳男性が強制わいせつの疑いで逮捕 ・小田急線で自殺 of 巻き添えで二人がけが ・【特集】桜を見る会～招待状はなぜ ・【特集】私は白鳥 ・スポーツ報道 		
<p>放送法第 4 条 of 見地からの検討・検証および該当トピック of 報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング：結論→特に問題なし スタジオで金平キャスターが「武器ではなく、命 of 水を、アフガニスタン of 戦火に苦しむ人々 of 支援活動を続けていた、医師 of 中村哲さんが現地で銃撃され死亡しました。この国 of 愚かな為政者たちとは次元 of 違う誇り高い生き方を貫いた中村さん of ご冥福を心からお祈り申し上げます。」とコメントをした。 このトピックについて当てられた時間は 22 秒で放送法上、特に問題は見られなかった。 ・神奈川県 of 行政文書が保存された HD 転売問題：結論→特に問題なし 神奈川県 of 行政文書が保存された HD 転売問題について、膳場キャスターによって「個人情報を含む神奈川県 of 行政文書を保存したハードディスクが転売された問題で別のハードディスクを盗んだとして逮捕された男が 3 年前から転売目的で盗んでいたと供述していることがわかりました。昨日、窃盗 of 疑いで逮捕された情報機器会社ブロードリンク of 社員、高橋雄一容疑者は今月 3 日社内 of データ消去室からハードディスク 12 台を盗んだ疑いが持たれています。高橋容疑者はオークションで売却する目的で盗んだと容疑を認めています、その後 of 捜査関係者への取材で 2016 年 3 月ごろから複数回やっていたと供述していたことがわかりました。また社内 		

実施した抜き打ちの調査で高橋容疑者の所持品からハードディスクが見つかったことも新たにわかりました。高橋容疑者は神奈川県行政文書が保存された18台のハードディスクについても盗んだことを認めているということで、警視庁は今後大規模な流出の実態を調べる方針です。」とのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は68秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・イギリスの万年泡沫政党：結論→特に問題なし

イギリスの万年泡沫政党について日下部キャスターの「総選挙の投票を12日に控えるイギリスには35年余りに渡って冗談のような候補を立て続けている永遠の泡沫政党が存在します。どんな人達なのか会ってきました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したVTRが取り上げられていた。

"ナレ「ロンドンから一時間ほど走った街にある党の地域支部、といっても普通のパブです。この人がオフィシャルモンスター・レイヴィング・ルーニー党。無理やり訳せば公式・大狂乱イカレ党の党首ハウリング・ロード・ホープさんです。他の候補者たちとともに時の首相ら、目立つ政治家のいる選挙区に出馬して勝利宣言の背景に写り込んでいました、健闘すれば数百票ほど獲得しますが、得票率が5%未満だと没収される500ポンドの供託金は戻ってきたことが殆どありません。」

ロード・ホープ党首「党の規則では供託金が戻ってきたら除名処分になります。イカレ方が足りなかったってことですからね。」

ナレ「候補者たちにはそれぞれ公約もあります。」

バロン・ヴォン・サンダークラブ候補「私の公約はドーデー（絶滅した鳥）の保護です。」

マーティン・ホグビン候補「私は月曜日を廃止します。誰も月曜日なんて好きじゃないでしょ。だから廃止します。今日月曜日だけど、じゃあこのあと廃止するか。」

ナレ「こうした実現不可能な公約は一種の皮肉でもあります。」

チナズ候補「政治家たちが公約を実現するようになればモンスター・レイヴィング・ルーニー党は必要なくなるさ。ということはまだかなり長事存続することになるね。」

ナレ「党の創設者はロックシンガーでもあったロード・スクリーミング・サッチ氏、1983年に結成されたオフィシャルモンスター・レイヴィング・ルーニー党はイギリスの選挙の風物詩になり、サッチ氏が1999年に他界した後も候補者を立て続けています。一体なぜでしょうか。」

デイル・ディクソン候補「国民が投票肉ことは本当に大事だと思う、選挙権のために命をかけた人もいるもし政治に飽き飽きして政治家は皆アホだと思ったら我々に投票すればいい。投票権を行使しつつ抗議することができるんだから。」

"ナレ「今回の選挙はEU離脱をめぐるゴダゴダで政治家への失望が高まっている中で行われます。」

記者「今回の選挙は期待できるか。」

ハウリング・ロード・ホープ党首「もちろん、票は伸びるね。我々こそが""公式""大狂乱イカレ党であって保守党や労働党と間違えないでほしい。彼らは""非公式""のイカレ党だからね。」

ナレ「24人の候補者を擁立、投票日前日には早くも祝勝会を催す予定です。」

このトピックについて当てられた時間は183秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】桜を見る会～招待状はなぜ：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「特集です。総理主催の桜を見る会桜を見る会の招待状を巡って、真相解明のカギを握る一人が、マルチ商法を展開したジャパンライフの山口隆義元会長です。」とのコメントに対し、金平キャスターが「え

一報道特集では、山口元会長をよく知る関係者を通じて、今回の問題について、山口元会長本人の認識を独自に聞くことができました。」と応え、以下に朱記した特集の VTR が取り上げられていた。

ナレ「桜を見る会の招待状が、マルチ商法に悪用されたのか？ ジャパンライフの山口元会長の認識は」
元会長の認識は（ナレ）「問題になっている 2015 年の桜を見る会の招待状は、本物であり、本当に届いたものです。」

元会長の認識は（ナレ）「桜を見る会に招待されたのは、福田赳夫総理の時が最初です。」

ナレ「桜を見る会の真実は解明されるのか、政府の説明責任は・・・」

金平「官僚の方の差し紙なしですね、ご自身の声でお答えいただきたいんですが。」

ナレ「今週月曜、参議院本会議で、安倍総理は、桜を見る会の招待者名簿のデータについて、こう答弁した」

安倍総理「端末にデータは保存されておらず、またサーバーのデータを破棄後、バックアップデータの保存期間を経た後は、復元は不可能であるとの報告を受けて、おります。」

ナレ「総理が口にしたバックアップデータという言葉、菅官房長官は、名簿データを消去した後、最大 8 週間バックアップデータが残っていたことを明らかにした。」

ナレ「野党が資料を請求していた 5 月、バックアップデータは残っていたのだ。」

記者「あの行政の管理下にまだあったわけですから、バックアップデータとして、であるならば、最大限努力して、きちんと、資料を提供するのが、行政としての義務じゃないんですか？」

菅官房長官「今申し上げましたけれど、そういう対応というよりも、今申し上げましたようにですね、・・・行政文書には該当しないと考えた前提で適切に対応したというように思います。」

ナレ「また野党は、マルチ商法を展開していたジャパンライフについて、消費者庁の対応を追及した。」

共産党 大門実紀史参院議員「当時、消費者庁の職員でおられた弁護士さんは、これはもう立ち入り調査をするべきだとおっしゃったにもかかわらず、文書指導になったと」

ナレ「これは、野党が入手した消費者庁の内部文書とされるものだ」

内部文書「平成 26 年、7 月 31 日、・・・企画官以下 4 人が全員、立ち入り調査を行う方針であることに、違和感がある。」

ナレ「当時の担当職員らが、ジャパンライフへの立ち入り検査を求めていることに対し、課長が違和感を示していたことが、書かれている。」

ナレ「さらに本件の特異性と書かれた文書には、」

文書「政治的背景による余波懸念。」

ナレ「結局、この時、ジャパンライフへの立ち入り検査は行われず、文書での、指導にとどまった。その後、桜を見る会の招待状とされるもので、勧誘が行われ、被害が拡大した。」

ナレ「この文書について、確認するとしていた衛藤大臣に昨日会見で聞いた。」

金平「その存在、および記録の確認作業というのは、今の段階ではどこまで、進められておられるんでしょうか？ お答えください。」

衛藤大臣「その存否や、内容に言及すると、当庁が行っているいろんな調査の手法やノウハウに関連する事項に関連してくるために、お答えを差し控えるのが適当と思っております。文書の中身とかなんとかについて、まだ、実際のところ、いろいろ調べておりましたが、わかりません。はい」

金平「この文書は存在するものなのか、どうなのかについての確認作業の今の段階はどうなんです。それだけでもお答えください。」

衛藤大臣「ちょっとちょっと待って。えーまあえー事件調査の過程で、まあ作成した様々な資料を明らかにする

ことによって、消費者庁の事件調査にあたっての着眼点とか、あるいは手の内を明らかにしてしまう恐れがありますから」

金平「いつ明らかにするんですか？」

衛藤大臣「まだわかりません。そういうことは、政治的背景によるよあけめん。クエスチョンなんて言う紙があったっていう話でございますけれども、関係者、幹部の方たち、全部関係しましたけれども、そういう意味では、政治的圧力は無かったということでございます。」

ナレ「この文書をジャパンライフ被害者の救済に取り組む大迫恵美子弁護士に見てもらった。」

大迫弁護士「政治的背景について言葉が入っているのはちょっと異常な感じがしますよね。」

ナレ「政治家とのつながりを強調していたジャパンライフの問題を巡り、消費者庁の担当者が敏感になっていた可能性もあるとする大迫弁護士。こう強調した。」

大迫弁護士「できるだけはやくですね、この文書がどういうことだったのかということを手明らかにしてもらいたいですし、消費者庁ができてからでさえも、安愚楽が破綻して、それからジャパンライフが破綻して、で、まあ史上戦後2番目、1番目の大被害が出てしまっているわけなんです。」

大迫弁護士「これは消費者庁はこういうものを防ぐために作ってもらいたかった庁なのにね、それができてからの方が大きな被害が出るというのは、これはもう、根本的にどこかが間違っているんです。」

ナレ「桜を見る会の招待状とされるものを使って、顧客を勧誘していたジャパンライフ。私たちが取材した被害者は、先週、こう語っていた。」

膳場「これはご覧になった覚えはありますか？桜を見る会に招待されてますよと」

女性「すごいことなんだなあって、私は思ったような記憶がある。」

膳場「どんな風に、照会されるんですか？誰かが紹介してくれる、読み上げたりするんですか？」

女性「スライドでだな。スライドで、社員さんたちが、あの読むんですよ。こうやって。会長は、テーブルってか、こういうところに座ってこうやって、」

ナレ「報道特集は、ジャパンライフの山口隆祥元会長をよく知る関係者を通じて、今回の問題の事実関係について山口元会長の認識を独自に聞くことができた。」

山口元会長の認識「2015年の桜を見る会の招待状は本物であり、本当に届いたものです。顧客への説明の際に、プロジェクターに映して使用しましたが、チラシとして配ったことはありません。安倍総理、昭恵夫人とは面識はなく、会って話したことも一切ありません。2016年以降は招待されていません。」

ナレ「2015年、山口元会長への招待状は本当に送られていたのか。」

安倍総理「桜を見る会の個々の招待者やその推薦元については、個人に関する情報であるため、招待されたかどうかも含めて、従来から回答を差し控えていただいているところです。」

ナレ「招待状について、山口元会長の認識は」

山口元会長の認識「桜を見る会に招待されたのは、福田赳夫総理の時が最初です。私は群馬県出身で、同郷の福田赳夫氏の後援会の仕事を手伝っていました。そのご縁で招待されたのではないかと思います。」

ナレ「福田赳夫氏が総理大臣だったのは、1976年から78年。在任中の桜を見る会は77年と、78年の2回だ。この数年前から、マルチ商法は社会問題化。1975年当時、ジェッカーチェーンという会社を経営していた山口元会長は、国会に参考人として招致されている。」

ナレ「この同じ年にジャパンライフを設立した。」

ナレ「福田赳夫氏の長男で、のちに総理になった福田康夫氏は、電話取材に対し、」

福田康夫元総理（ナレ）「招待したかどうかについては、40年以上も前のことになり確認できないが、今ほど総

理の招待枠が多くない中で、推薦することはありません。当時の総理は、この種の事には全く関係せず、総理分は秘書官、・官邸参事官で決めていた。私自身も、山口という人物は全く知らない。」と答えた

ナレ「また同じ群馬県出身の他の総理についても、」

山口元会長の認識「中曽根康弘氏、小渕恵三氏の後援会の手伝いもしたこともあり、総理大臣の時に、桜を見る会に招待されました。」

ナレ「事実関係について、小渕元総理の次女で、衆議院議員の小渕優子氏の事務所は」

小渕優子衆議院議員の事務所(ナレ)『『当時の秘書も資料もないので、ご質問の事実を確認することはできません。』と文書で回答した。』

ナレ「中曽根元総理の秘書は電話取材に」

中曽根元総理の秘書(ナレ)『『当時のことを分かるものがない』と答えた』

ナレ「中曽根氏が総理を務めていた1985年には、マルチ商法が改めてクローズアップされた。」

新聞記事(ナレ)「マルチまがい『ジャパンライフ商法』まるで、借金アリ地獄。」

ナレ「国会でも、ジャパンライフ問題の集中審議が、行われた。」

ナレ「福田赳夫元総理以降、今の安倍総理まで、桜を見る会を主催した総理大臣は16人。山口元会長は、こんな認識を示した。」

山口元会長の認識(吹替)「歴代総理の桜を見る会に招待された記憶はありますが、全ての総理に招待されたかまでは、覚えていません。ただし、今まで1回も桜を見る会に出席したことはありません。」

ナレ「その一方で、」

山口元会長の認識「民主党政権当時の鳩山由紀夫総理の時も、招待されました。」

ナレ「鳩山由紀夫元総理の事務所は、」

鳩山元総理の事務所(ナレ)「招待したかどうかは今となっては分からないが、鳩山元総理自身は人選に関わっておらず、全て官邸と当時の民主党で相談し、内閣府と調整したのではないかと。山口という人物とも、面識はない」とメールで回答した。」

ナレ「私たちは内閣府に、福田赳夫総理以降、山口元会長に招待状を送ったことがあれば、全て明らかにするよう、求めたが、」

内閣府(ナレ)「保存期間が1年未満ということで、過去のものも含め、招待者のリストは保存していないため、内閣府では把握していない。」

ナレ「報道特集は、山口元会長に、さらに取材を試みたが、山口元会長が示した認識はここまでだった。」

ナレ「果たして、山口元会長の認識通り、本当に招待状は送られていたのか、そして政府は説明する意思はあるのか。国会の会期末は来週、月曜日に迫っている」

安住淳国対委員長「極めて異例なんですけども、野党の側から会期延長を正式に求めていこうと、年末年始も紅白歌合戦も関係なく、徹底的に質疑したいと思って。」

ナレ「野党側が、40日間の会期延長を求めたのに対し、与党側は、」

自民党 森山裕国対委員長「閣法については、衆議院は、全て結論を出しておりますので、会期延長する理由がないということでもあります。」

ナレ「野党側は、内閣不信任決議案を提出するかどうか、会期末の週明け月曜日にきめる方針だ。」

ナレ「桜を見る会の招待に関する責任者である菅官房長官に昨日、金平キャスターが聞いた。」

金平「国民の間からですね、疑問とか不満とか、憤りの声が非常に高くなっているのは、ご承知の通りですね、現時点で長官は、政府がですね、国民に対して、説明責任を十分に果たしているというふうにお考えですか？そ

れとも、もう十分に責任を、説明責任を果たしたんだと、もう幕を引いて良いんだというふうにお考えなんですか？あの一官僚の方の差し紙無しでですね、ご自分の声でお答えいただきたいんですが。」

菅官房長官「果たしているというように思っています。」

金平「はたしている？」

菅官房長官「はい。」

特集のVTRを受けてスタジオで以下に朱記したやり取りが繰り返されられた。

膳場「えージャパンライフの山口隆祥元会長の認識をお伝えしたわけですけども、これが事実だとしますと、おそらく昔から桜を見る会の招待者名簿というものが、あって、ジャパンライフのマルチ商法が社会問題化した後も、チェックされることなく、それが引き継がれてきた可能性があるということになると思います。」

膳場「で、あの一政府の検証に進展がない中、改めてこのジャパンライフの元会長を国会に承知して、話を聞く必要があると思うんですけど、それを放置したまま、月曜に国会を閉会してしまって、果たしていいものなんですか？」

日下部「あの一モリカケ問題の時もそうだったんですけども、この桜を見る会についてもね、いつまでもこの問題にこだわっているんだと。もっと議論すべき重要な問題がたくさんあるんじゃないかって、批判がありますよね。ただ一方で与党がですね、提出した法案についてはですね、結論がでてる。つまりもう話し合うことは無いから、会期延長する理由もないと。言ってるんで、こうした与党の姿勢もね、こう批判されるべきなんですけれども、とにかく問われているのはですね、公文書の取り扱いという、日本社会が長いことないがしろにしてきたね、問題だということですよ。」

金平「私ね、大臣会見に参加してつくづく思ったのはですね、答弁する大臣の能力と資質がですね、著しく劣化しているんじゃないかってことですね。自分の言葉で答えられない。それから、官僚の差し紙を読み上げている。ひどい場合は、差し紙の無関係のところ読み上げたりするんですよ。え、これはですね、はっきり言えば、末期的な光景です。国民をなめているんだというふうに思いますね。あと、必死に差し紙をしているんですね、国家公務員の方に申し上げたいんですが、あなたたちはいったい誰のために仕事しているんですかということですよ。公務員っていうのは、全体の奉仕者で、一大臣や、一政権のために働いているわけではないですからね。まったくこんな国に一体いつからなっちゃったんだというふうに、思いますね。」

この特集に当てられた時間は1158秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・報道構成について：結論→印象操作の恐れアリ

「【特集】桜を見る会～招待状はなぜ」では、スタジオで日下部キャスターが「モリカケ問題の時もそうだったんですけども、この桜を見る会についてもね、いつまでもこの問題にこだわっているんだと。もっと議論すべき重要な問題がたくさんあるんじゃないかって、批判がありますよね。ただ一方で与党がですね、提出した法案についてはですね、結論がでてる。つまりもう話し合うことは無いから、会期延長する理由もないと。言ってるんで、こうした与党の姿勢もね、こう批判されるべきなんですけれども、とにかく問われているのはですね、公文書の取り扱いという、日本社会が長いことないがしろにしてきたね、問題だということですよ。」とコメントをしていた。

「いつまでもこの問題にこだわっているんだと。もっと議論すべき重要な問題がたくさんあるんじゃないかって、批判がありますよね」と紹介されていた批判はどこでされているのかは明示されていなかったが、一般の国

民からもそうした批判があるとすれば、それはモリカケ問題や桜を見る会の問題ばかりを取り上げる一方で国会で他に議論している問題をほとんど取り上げなかったメディアにも責任の一端はあるのではなかろうか。

少なくとも今日の報道特集では他に国会で議論されている問題は取り上げられていなかったし、最近の報道特集でも与党が提出した法案について十分に取り上げられているとはとても言えるような状態ではなかった。

その結果として、視聴者に対して「国会は連日、桜を見る会の問題ばかりを取り上げて他の問題を議論していない」という印象を与えてしまっているのではないだろうか。少なくとも最近の報道特集の報道構成では、そうした印象を与える恐れが極めて大きいものであった。

検証者所感

・【特集】桜を見る会～招待状はなぜ

スタジオで金平キャスターが「あと、必死に差し紙をしているんですね、国家公務員の方に申し上げたいんですが、あなたたちはいったい誰のために仕事しているんですかということですよ。公務員っていうのは、全体の奉仕者で、一大臣や、一政権のために働いているわけではないですからね。まったくこんな国に一体いつからなっちゃったんだというふうに、思いますね。」とコメントしていたが、一大臣や一政権のためというよりも一省庁や自らの保身のためではないかという気もしなくもない。

そもそも、日下部キャスターが「とにかく問われているのはですね、公文書の取り扱いという、日本社会が長いことないがしろにしてきたね、問題だということですよ。」と指摘しているような問題もあり、それはまさしく「日本社会が長いことないがしろにしてきた」というわけで金平キャスターの「こんな国に一体いつからなっちゃったんだ」という問いに対しては「最初からそうだった」という答えも十分に成り立ちうる。

2000年に入ってからでも社会保険庁の消えた年金問題を代表に役所の文書・情報管理の杜撰さを示す例は枚挙に暇がないが、そうした役所の体質の問題を政局の問題に矮小化して、政権が変わると不問に付して相変わらず大きな政府路線の後押しをしてきたメディアの責任も大きいだろう。